

創刊の辞

私たちの部落解放研究所が創立されて、すでに満4歳の年月が流れた。そして機関誌「部落解放」も30号を数えるに至っている。その間、研究部が設置され、各部会の研究体制も漸次充実しつつある。当然のごとく、研究専門誌の発行を望む声がかまってきた。

こうして、今日、「部落解放研究」の創刊をみるに至ったのである。誠に嬉しい限りと言わなければならない。部落解放同盟は、今年、満50年の歴史的伝統をうちたてた。また今年、1871年、解放令が出されて100年である。この記念すべき年に、私たち研究所が、研究誌「第1号」を世におくることが出来たのは、正に、部落解放運動に結集された、広汎な人々のお陰である。近代日本100年の歴史は、差別・迫害に満ちた歩みであった。そして部落民はこの差別・迫害に対し、人間に光あれと叫び、全国水平社を創立した。部落解放運動は、幾多の弾圧・迫害の中に、人間解放の巨歩をすすめたのである。今日、この解放闘争の歴史は、部落解放の深い理論を結実し、誇り高い伝統を築きあげている。私たち研究所は、この伝統と理論に学び、これを継承し、より発展せしめる任務を自覚するものである。そして、今日の部落解放運動の実践に学びつつ、集約し、歴史的理論を構築し、部落解放運動の前進のために問題を提起することに誇りをもつものである。従来、「部落解放」は、運動におけるその時々状況をつたえ、より広汎な人々にたいする啓蒙・伝達の任を果たしてきた。今後も、その重大な任務をより発展させるであろう。だが、専門的研究と資料の整理を報告するには、どうしても独立した研究機関誌を必要とするに至ったのである。

今日、部落解放運動は急速な発展を示し、巨大な力量をもつに至っている。だが、その内外に幾多の困難な問題をもつことも事実である。さらに、部落史の研究、部落の産業、経済、労働、社会構造や政治、同和教育や思想面についても、幾多の問題点や未整理点、そして意見の対立をみるのである。私たち研究所は、これらの諸問題が、真に部落を解放する観点より、自由に、かつ斬新な発想と、確実な資料に基く大胆な討論研究を歓迎するものである。その一つの場として、この「部落解放研究」が機関誌「部落解放」とともに広く活用されるよう、心より希望するものである。

関係者の皆様の一層の御協力と御支援をお願いする次第である。

1972年8月

部落解放研究所